

大学院ニュースレター

久留米大学大学院医学研究科

第 61 号 / 2011 年 12 月 20 日発行

編集 / 医学研究科長

『若き医師たちへ。』

放射線医学講座（核医学 PET センター）

石橋正敏 教授

新臨床研修制度が発足してしばらく経つが、その意義・成果に関しては未だ議論の絶えないところである。都会に向かう医師の増加、大学病院の医師数の減少及び基礎医学へ向かう医師の減少は、我々医療人だけでなく患者となり得る一般市民にも、現在直面している大きな課題として広く認識されていることだろう。

ところで、「2年間の研修期間に各診療科をローテーションし、幅広い診療能力の習得を目的とする。」この制度の下で行う初期研修医の教育は、指導医にとって大変な労力を必要とする。その要因として、指導期間が数カ月と限定されていることが挙げられる。私の専門分野である、放射性物質を扱う核医学 PET センターでの最初の教育目標は、患者へ微量の放射性物質で標識した放射性医薬品を投与する場合の考え方、即ち、放射性物質の物理学的特性と安全取り扱いを徹底的に頭に叩き込むことである。微量とはいえ、放射性物質で標識した放射性医薬品を投与された患者の安全性の確保、並びに医師及び核医学専従者自身の医療被曝軽減が何よりも重要だと考えている。最初にローテーションで核医学 PET センターを選択する初期研修医の多くは、医学と理学・薬学・工学・数学といった他分野との関わりを説明してもなかなか理解出来ないのが現状である。その対策として研修医にはまず簡単に、放射性物質の関わる原子核物理学の世界と分子生物学の世界の話をする。

その後、研究における分子病理学との関わりや、放射性物質で標識した放射性医薬品と細胞内の挙動について説明を行う。1-2か月経過し、やっと医学と他分野の学問との繋がりに関心を持つ者が現れる。しかし知識と技術が身につく行動が伴ってきた頃には他科へと旅立つ時期となり、また真新しい研修医がやってくる、といった具合である。なぜこの様な苦勞をしなければならないのか。これは1つに、高校の授業で原子核物理の講義が除外されているためではないだろうか。

最近、文部科学省により中学における放射線の授業が約30年ぶりに再開され、高校でも原子核物理の授業が始まると聞く。その背景となるのは、2011年3月11日の東日本大震災による福島第一原発事故である。これ以降、国民全体に放射線という目に見えないものへの不安が広がり、放射線への関心が急速に高まった。今後は、医学部の学生が放射線の知識をある程度もって入学し、専門的な知識を大学で学ぶことでより一層の理解を深め、より良い形で患者に還元していただけることを期待する。

大学院に入学した学生達の指導にも大変な苦勞が伴う。わたしは大学院生に核医学の研究手法を教える前に、学位論文は英語で書きなさいと指導する。正しい研究手法を学ぶことが大事なのは言うまでもない。しかし、自ら英語で論文を書く、これを最初から意識することで、英語の論文を読む

姿勢、意欲そしてめざすゴールが違ってくるものだ。また英語の論文を書くことで、英語圏内、ひいては世界で自分の研究がいかに評価されているか知ることができる。新しい学説を発見したときの喜びは大変なものであり、臨床研究や技術の向上に弾みを与える。一切、英語論文を読まず書かずで臨床医学を続けると、必ず壁にぶつかるものとする。ある大学院生の真面目な勉強態度には感服した。学位論文が完成するまでの苦労は一方ならぬもので、彼女の専門領域である小児神経でも、微量の放射性物質で標識した脳血流製剤を扱った核医学画像の三次元統計学処理を理解するのに、多くの時間と努力を要しながらも一念通天で成し遂げた。しかしこの様な大学院生の例は稀である。各大学や研究所で基礎医学と臨床の融合を試みた研究をさせようとすると、混乱して研究の方法すら解らないのが現状である。

臨床の現場において、優れた臨床技術を

駆使して患者を治癒へと導くのはすばらしいことである。しかし若い時には一度、基礎研究に没頭する時間をもって欲しいと思う。昨今は研究離れが顕著であり、専門医を取得すれば医学博士号は必要ないと考えている若い医師も多く存在する。経済界においては理工学離れの学生が多いとも耳にする。2進法に基づいたiPhoneに没頭し、十進法に基づく基礎研究は無視されがちである。便利な利器を使うことで人は非常に優れた能力を発揮するが、その利器を発明する発想の転換には劣ると考える。若い時は、目の前の現実と真摯に向き合うのも結構だが、充実した未来を手に入れるため、夢の実現のため、研究室の仲間と気炎万丈の議論を行い、臆することなく査読制度のある英語の論文作成に邁進することを望む。



ティールーム



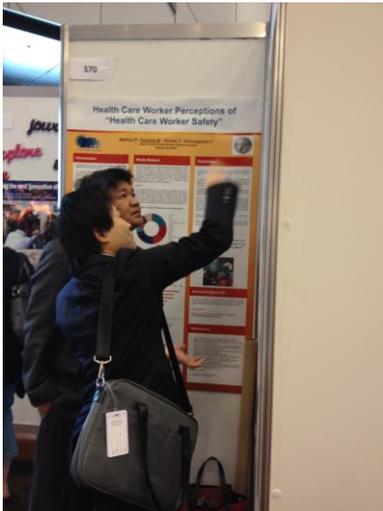
文部科学省研究拠点形成費等補助金（若手研究者養成費）「組織的な大学教育改革推進プログラム」に採択された修士課程「感染制御看護師（ICN）養成プログラム」の教育の一環として、平成23年11月7日～13日に、オーストラリア・メルボルンにおいて国際感染看護学実習を実施しました。今回、本実習に参加した修士2年梅津さんより、貴重な体験をご報告いただきましたので、ぜひご一読下さい。

『オーストラリアでの国際感染看護学実習を終えて』

修士課程2年 梅津 敦士

私は、平成21年度に新設された修士課程感染看護専門看護師教育課程のアドバンスド・プログラムコースを専攻しています。このコースは、国際的な感染症問題や個人・集団の感染を予防、発生した場合にも適切に感染管理が実践できる感染制御看護師の育成を目指したプログラムコースです。





その一環として今回、国際学会への参加、病院視察等を行いました。まず、メルボルンで開催された The 5th International Congress of the Asia Pacific Society of Infection Control (APSIC) では、衛生行動が様々であり且つ、感染症情報が取りにくいとされる在日外国人を対象とした感染症予防教育とその在り方について発表を行いました。日本語もままならない私は、英語でさらに苦戦しながらもジェスチャーを取り入れながら何とか無事発表を終えました。Victorian Infectious Diseases Reference Laboratory (VIDRL) の視察では、実際の Lab を見学させて頂きました。The Royal Melbourne Hospital の視察では救急部門での感染対策の見学を行い、自分には思いつかない視点や発想を頂き、感染対策への新たな切り口を学ばせて頂きました。

私自身未熟ではありますが、今回の実習を通し、自分自身の知識や考え方の狭さを感じました。いろいろな視野や幅広い物の考え方を学ぶためにも自分の殻を脱ぎ外に出ていく勇気が必要であると学ぶことが出来ました。日頃よりご指導いただいております、三橋先生、佐藤先生をはじめ、感染制御や感染症についてご教授いただいております渡邊先生、三浦先生、統計学についてご教授いただいております角間先生にはこの場をお借りして感謝申し上げます。



事務通信



◆修士課程・博士課程学生の皆様へ◆

大学院教育・研究に関する意識調査実施について

大学院医学研究科のFD活動（注：「ファカルティ・ディベロップメント」授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を指す）として、学生による大学院教育・研究に関する調査を、平成24年2月上旬ごろ実施します。詳細は、郵送あるいは講座等を通じて、また、医学研究科HP (<http://gmed.kurume-u.ac.jp/>) でもお知らせしますので、届きましたら必要事項をご記入の上、期日までに医学部事務部教務課へご回報ください。ご協力の程よろしく申し上げます。

本学大学院医学研究科におけるFD活動は、これまで、2年毎に開催される「医学教育ワークショップ」で、大学院教育の改善に対する討論を実施しているほか、平成19年4月1日より「大学院医学研究科規程」を改正し、「教育内容等を改善するための研修」に関する取り組みを研究科として行うことを明記している。



◆修士課程第2学年学生の皆様へ◆

学位論文提出と年度末スケジュール



1. 学位論文申請書類と提出期限

〔提出期限：平成24年1月20日（金）17時（時間厳守）までに庶務課に提出〕

- ① 学位論文審査願 1通
- ② 主論文 5通（印刷公表が望ましい）
- ③ 参考論文 各3通（作成している者のみ）
- ④ 論文目録 1通
- ⑤ 論文要旨 1通
- ⑥ 履歴書 1通
- ⑦ 単位修得証明書 1通（教務課にて準備する）
- ⑧ 写真（4×3cm） 1枚

申請書類については、医学研究科ホームページ（<http://gmed.kurume-u.ac.jp/>）の書式ダウンロードページより入手して下さい。また、申請書類のうち①～⑥については、下書きを提出締切日前に学位担当に提出し、事前にチェックを受けられるようお願いいたします。

〔学位担当：医学部事務部庶務課 中村加（内線 3014）E-mail: nakamura_kana@kurume-u.ac.jp〕

2. 口述試験〔期間：平成24年2月1日～2月16日〕

*詳細については学位申請時に説明。

3. 最終審査〔平成24年2月22日〕

*合否については3月1日以降各々指導教授に確認すること。

4. 学位記授与式〔平成24年3月28日11時～〕

*場所：筑水会館2階イベントホール



◆博士課程第1学年学生の皆様へ◆

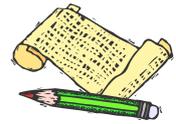
研究題目調査実施について



博士課程1年生を対象に、平成24年2月上旬ごろ研究題目調査を実施します。この調査は博士課程在学中の各自の研究テーマを調査するためのもので、久留米大学院医学研究科規程第9条に基づき、第2学年前期の始まる前までに決定することと定義されております。調査書類が届きましたら、必要事項記入の上、期日までに必ず医学部事務部教務課までご返送下さい。

◆博士課程第4学年学生の皆様へ◆

学位論文提出の手続きはお済みですか？



博士課程4年生で今年度中に学位論文を提出し、修了を予定する方は、既に配布したスケジュールに沿って準備をお願いします。なお、提出しない方については、平成24年2月上旬ごろを目途に医学部事務部教務課から「在学期間延長・単位修得満期退学希望調査」を実施しますので、その際にご回答をお願い致します。

講義情報

★修士「看護政策論」

- ・補講日程 平成24年2月4日 3～5時限（看護学科A棟2階講義室1）
- ・レポート

提出日：平成24年1月31日 提出先：医学部事務部教務課

提出方法：データ及び紙媒体の両方を提出すること。

★博士「プロテオーム／ペプチド解析」

- ・日程 平成23年12月20日、平成24年1月10日、17日、24日、31日 6限
（教育1号館5階1501教室）

★修士・博士「リサーチナース／CRC養成ユニット」「臨床研究主任研究者養成ユニット」

- ・日程 平成23年12月21日、平成24年1月25日 6限（教育1号館5階1501教室）

お知らせ



学生駐車場募集について



現在大学院に在籍する学生の平成24年度学生駐車場の申請については、例年1月末～2月初旬に受け付けております。正式な公募要領は駐車場委員会で審議され、決定されます。当該時期になりましたら、各所属講座や医学研究科ホームページを通じてお知らせしますので、申請を希望される方はご確認をお願いします。

2012年度 第7回「ロレアル-ユネスコ女性科学者 日本奨励賞」募集について

ロレアル-ユネスコ女性科学者日本奨励賞事務局より、生命科学、物質科学の分野において、博士課程に在籍あるいは進学予定の40歳未満の女性で、交付後1年間国内で教育・研究に従事できる方を対象とした、奨学金無償給付のお知らせが届いております。募集に関する詳細についてはロレアルホームページにて各自ご確認ください。

日本ロレアルホームページ http://www.nihon-loreal.co.jp/ja_jp/index.aspx

前期入学試験結果発表!!

平成23年10月18日（火）に行われた前期入学試験の結果は下記の通りです。
後期試験については次項のとおり実施します。

	修士課程	博士課程
志願者	7名	11名
受験者	7名	11名
合格者	6名	10名

平成24年度大学院医学研究科後期入学試験のお知らせ

【試験日程】修士・博士ともに同一

出願受付期間：平成24年1月16日（月）～平成24年1月27日（金）

試験期日：平成24年2月21日（火）

合格発表：平成24年3月16日（金）午前10時

【試験内容】

***修士課程**

英語・小論文・面接 ≪基礎医学・社会医学・分子生命科学・臨床看護学群≫

英語・面接 ≪バイオ統計学群≫

***博士課程**

英語・面接

別途、科目等履修生も募集しております。身近な方で、医学研究科に興味・関心をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ご紹介の程どうぞよろしくお願い致します。

**編集後記**

2011年も残りわずかです。今年は3月に東日本大震災に見舞われ、心痛な思いをされた方も多いことでしょう。全国各地で復興支援の和が広がりました。こうした中、今年の漢字に「絆」が選出されました。2012年はこの絆がますます深まり暖かい一年となりますように。良い年をお迎えください。(中)